

施策	63	地域資産の保存継承	政策	6	地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり		
施策主管課	生涯学習・スポーツ課	課長名	馬場保之	内線	3740	政策担当部長名	社会教育担当参事 松下 徹
施策関係課名	歴史研究所、公民館、美術博物館、文化会館、図書館						
重点施策	○	関連計画	飯田市教育振興基本計画、地育力向上連携システム推進計画、飯田市歴史研究所第3期中期計画「伊那谷の自然と文化」をテーマとした取組み方針				

1 施策の目的

目的	対象	地域資産(価値が見出された地域資源)
	意図	保存・継承される(活かし続ける)

2 現状把握

(1) 対象指標、成果指標の状況

対象指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
①	活用できる状態の整った地域資産の数(累計)	件	580	618	647	670	679	683	704		
成果指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	実績値 28年度	目標値 28年度	指標の 傾向
※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理											
①	保存・継承されている地域資産の累計割合	%	100	100	100	100	100	100	100	100	○
②	保存・継承されている地域資産の数(累計)	件	580	618	647	670	679	683	704	700	◎

(2) 成果向上に向けての役割分担

主体		役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	24年度	25年度	26年度	27年度	実績値 28年度	目標値 28年度	指標の 傾向	
行政	市(国・県)	①所有者・地域での保存・継承活動を支援する。 ②地域資産を保存・継承する。	①支援の数(保存団体等への資金等の支援数、教委データ、件) ②保存・継承している地域資産の数(教委データ、件)	①	18	19	23	24	21	30	○
				②	647	670	679	683	704	700	◎
主体		役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項(後期5箇年)							
市民等	個人・各種団体	保存・継承する。	①保存・継承活動を行っている団体・個人の数 ②保存・継承している地域資産の数	伊那谷研究団体協議会(伊那谷学の研究活動を多様な分野で行っている16団体が加盟)から、伊那谷学のとらえ方と今後のあり方についての考え方が打ち出され、この中で伊那谷学の推進により地域資産の大切さへの気づきを促し、保存活用に資することの必要性が示された。							

役割の発揮状況

後期(5箇年)	行政として多様な主体に対する協働の働きかけの取組と成果	・伊那谷研究団体連絡協議会との情報・意見交換を重ねる中で、同協議会では24年度に伊那谷学のとらえ方と今後のあり方について、市教育委員会では25年度に伊那谷の自然と文化をテーマとした今後の取組み方針をまとめ、相互に連携・協働できる取組みをできるところから開始した。 ・地域資産の保存継承においても、多様な市民組織や所在地域の住民組織等が主体となり、これに行政が担うべき役割を發揮して協働することを基軸とした飯田方式が、定着・充実してきている。
	多様な主体の協働を推進していくための課題	・地域資産の多くは私有財産であり、所有者の理解、協力なくして保存継承はできない。また、史跡、名勝、天然記念物等の地域資産は、所在地域の住民がその価値を認め保存活用する営みがないと良好な状態で後世に継承することができない。地域資産の保存継承が、所有者や地域住民の理解のもとに、市民と行政の協働により継続的に行われていくための環境・条件を整備していくことが基本的な課題である。 ・伊那谷研究団体連絡協議会を構成する各組織では、既存会員の高齢化と新規会員の確保の困難さから減少傾向が進んでおり、今後の活動の担い手となる人材の発掘、育成が大きな課題となっている。長期的な視点から見ると、このことが地域資産の保存継承にも大きな影響を来すことが懸念される。

3 施策を取り巻く状況変化・有識者等の意見

この施策に対して有識者等(議会、市民、関係者・団体等を含む。)からどんな意見や要望が寄せられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・橋北まるごと博物館構想、恒川官衙遺跡、無形民俗文化財や、ユネスコ・エコパーク、日本ジオパーク等、地域の理解を得て取り組むとともに、市民への普及啓発と地域の魅力発信に取り組まれない。地域資産については、観光資源としての視点からも保存、継承、活用を検討されたい。多くの市民が地域資産を身近に知り触れられるよう情報発信、広報の在り方について強化、研究されたい。小さな世界都市を目指す中で、「人形劇のまちづくり」を生かし発信し、観光面でも生かすことができるよう当地域の人形浄瑠璃に関する学術的研究を推進されたい。(市議会) ・元善光寺を地域資源として再評価し活用を図る方向性を打ち出すべき。美術品や資料の収集・保管に支障を来さないように計画的な収蔵庫の整備について検討すべき。菱田春草生誕地整備活用事業について、市民寄付による事業過程を評価し、行政による支援を積極的に行ってほしい。(基本構想推進委員) ・地域資源・資産は、当地域の魅力形づくる重要な要素であり、リニア時代にはその重要性がますます増してくるので、さらなる取組みを願いたい。個々の文化財のみならず、その周辺の景観の保全育成にも取り組んでほしい。地域資産の保管・公開施設の充実を求めたい。(社会教育委員会) ・近年、コミュニティの衰退や所有者の高齢化等にもない、地域や個人が管理保存してきた文化財の寄贈・寄託が増加している。今後こうしたことは増え、収蔵庫の拡張、確保が確実に課題になると予想される。(美博評議員会) ・飯田下伊那地域には、飯田市に關係する古文書が多数存在する。内容を判断したうえで、後世に残す書類として歴研で保存願いたい。(歴研協議会)
施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源・資産は、地域の個性や魅力を形づくる重要な要素であり、貴重な財産であるという市民意識が一般化してきている。 ・リニア時代に向けて、守るべきもの、活かすべきものとして磨きをかけることで、小さな世界都市の魅力形づくる資源・資産にもなっていく。 ・その一方で、維持管理の困難性やリニア時代に向けた諸開発により、貴重な地域資源の消失も懸念される。 ・文化財等の地域資産については、コミュニティ機能の低下や、所有管理者の高齢化、無住化など、保存継承上の課題を生ずるような状況変化が進みつつある。

4 評価結果(後期5箇年)

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

<input type="checkbox"/> 計画どおり取り組めた
<input checked="" type="checkbox"/> おおむね計画どおり
<input type="checkbox"/> あまり取り組めなかった
<input type="checkbox"/> 達成できなかった

(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

<input type="checkbox"/> 進んだ
<input checked="" type="checkbox"/> ある程度進んだ
<input type="checkbox"/> あまり進まなかった
<input type="checkbox"/> 進まなかった

5 後期5箇年の取組評価(主に取り組んできた事項とその成果・成果が得られた要因)

【評価結果の理由】

○地域資源の発見・資産化の施策(施策61)で資産化した地域資産については、計画期間中に消失や損壊を来すことなく保存継承してきている。

<市民による保存活動への支援>

- 国選択無形文化財である今田人形、黒田人形、国重要無形文化財である霜月祭りの保存継承活動への支援を継続している。
- 所有者等が事業主体となって実施した指定等されている文化財の修復等について、実施方法等に係る事前協議を行うとともに、実施段階では飯田市文化財保護事業補助金交付要綱に基づく補助金を交付し、所有者と協働に必要な保存措置を講じてきている。(24年度～28年3月末;16件)
- 光明寺の無住化により、美術博物館が地元檀信徒から重要美術品の寄託を受けて保存継承してきている。
- 美術博物館では、伊賀良北方出身の文人画家鈴木芙蓉を顕彰する展示を行うとともに、北方区による区民の学習会や伊賀良小学校のギャラリーの改修と作品展示などを支援した。

<地域資産の保存・活用>

- 中心市街地において旧飯田町の風情を残す「橋北まるごと博物館」のエリアについて、国登録有形文化財に登録した旧飯田測候所建物の修復と、敷地一帯を市民の憩い・交流の場とするための整備を行った。あわせて、旧飯田藩馬場調練場の門(通称脇坂門)の移転整備を行った。
- 国史跡指定が実現した恒川官衙遺跡については、26・27年度に専門委員会を設置して、今後の保存管理と整備活用の方針となる保存活用計画を策定した。
- 飯田古墳群については、将来に向けてより確実に保存継承し活用していくための国史跡指定が平成28年10月に実現した。
- 南信州広域連合と県下伊那地方事務所が主管して平成27年度より3ヶ年計画での民俗芸能継承推進事業が開始され、飯田市としても当該事業の推進組織に参画して民俗芸能の担い手の発掘・育成を重点にした検討と取組みを進めている。

<保存管理環境の維持・整備>

- 多様な地域資産を展示・保管する施設の管理運営と、必要個所の修繕整備を行ったきている。
- 今後の保存継承を効果的かつ効率的に進めるために、考古資料館や考古博物館といった類似施設の整理統合に向けた検討に着手した。
- 歴史研究所については、上郷自治振興センター・公民館の現地改築計画が具体化してきたことを受けて、機能移転先の検討を行った。

6 上記の取り巻く状況の変化等を踏まえ、かつ、リニア時代を見据えた上での課題・その課題に取り組む際の方向性(有効策)

<市民による保存活動への支援>

- 「伊那谷の自然と文化」を21世紀型戦略的地域づくりの「守るべきもの・備えるべきもの」として位置づけ、これをテーマにした学術研究、学習普及、保存継承、地域づくりへの活用を図る取組を重点的に進めてきているが、今後の地域変ぼうに備え、地域資産を活かした個性と魅力にあふれた地域づくりを目指して、多様な主体と協働し、かつ、社会教育機関が総合力を発揮して、取組みをさらに進める。
- 地域資産は、その多くが市民の所有・管理によっているため、多様な主体との協働関係を構築し、地域資産を地域ぐるみで保存・継承していく社会環境を醸成するとともに、指定文化財についてはその保存に必要な修繕等や、後継者育成活動に要する経費の一部を支援する。
- 地域固有の貴重な文化資産である人形芝居、霜月祭りについては、南信州広域連合と県下伊那地方事務所が主管して実施される伝統行事(芸能)継承モデル事業に参画して、担い手の発掘・育成を重点にした取組みへの支援を行う。

<地域資産の保存・活用>

- 国史跡の恒川官衙遺跡については、保存活用計画に基づいて適正な保存管理と効果的な整備活用を進める。国史跡飯田古墳群の高岡第1号古墳とともに、周辺にある麻績の里、南本城城跡、元善光寺等を含めた一体の地域を「2000年浪漫の郷」と位置づけ、地域と協働して、今後の整備活用を図る。
- 旧飯田町の風情を残す橋北まるごと博物館のエリアの整備活用を地域及び関係団体等と協働して進める。
- 飯田古墳群については、これまでの長年の調査研究成果を基に、その存在と価値を広く伝えるための情報発信を行うとともに、将来に向けた保存活用の方針を定める保存活用計画の策定を行う。
- 地域資産を保存・活用し、地域の魅力をさらに高め発信していくため、伊那谷の自然と文化をテーマとした学究、普及、継承、活用の取組を関係部署と連携しながら強化するとともに、伊那谷研究団体協議会を構成する団体や研究実践者等と協働してさらに進める。

<保存管理環境の維持・整備>

- 地域資産の展示公開施設については、公共施設マネジメントの取組みの中で、今後の施設のあり方を検討するとともに、必要なものは計画的な改修・修繕整備を行う。
- 地域資産・資源、各種資史料の保管方法のあり方と、保管場所の確保について引き続き検討する。
- 歴史研究所については、第4期中期計画に基づき、その機能をさらに充実発揮できるよう機能移転と施設環境整備を進める。